

# 加工工場の品質管理強化

## ミットモ 検査徹底へ積極投資

食品原料輸入販売のミットモ(本社名古屋市中区栄、安田尚総社長、電話052・204・1661)は、加工拠点の名古屋工場(名古屋港区)の品質管理を強化する。同工場は昨年11月、名古屋市の食品衛生自主管理施設(地域HACCP)として認定を受けた。今後はさらに安全・安心な食品加工販売に向けて、検査機能を拡充し、最新機械の導入も進める意向。食の安全・安心を徹底することで業容拡大につなげる。将来的には、愛知県内に最新設備を兼ね備えた新工場建設も検討していく。

(水谷英志)



安田尚総社長

同社は1982年設立。2015年5月期の売上高は約60億円。従業員数は28人。昨年12月には、将来性が評価されて、名古屋中小企業投資育成が5千万円を出資した。同出資金は今後の事業資金として有効活用する。



加工拠点の名古屋工場(名古屋港区)

同社は、食品原料の輸入販売商社として事業展開。卵に由来する粉末原料「粉末卵」、乳製品、天然酵母などを、大手食品メーカーや食肉加工メーカーに卸販売している。昨年、名古屋工場内に自動シール機を導入し、粉末卵の自社加工生産体制を整備した。食の安全・安心に対するニーズに応えるため、近年は社内検査体制の強化に重点を置いている。

その成果として、名古屋市が食の安全確保に向けて優れた取り組みを行う事業者を認定する「食品衛生自主管理施設(地域HACCP)」を、市内に事業所を置く業界関連企業で初めて取得した。

検査業務はこれまで、協力企業や公的検査団体に外部委託してきた。今後社内検査体制を強化することにより、食の安全・安心に関する顧客ニーズに、ワン

ストップで即時対応する態勢を整えていく。安田社長は「大手企業と同等もしくはそれ以上の、安全・安心な製品管理戦略を進める」と話しており、品質管理強化に向けた積極的な投資を続ける考え。

また、名古屋工場は手狭になっており、新たな加工拠点増設も視野に入れている。さらに、食品のトレーサビリティ制度が、廃棄後まで追跡できる仕組みづくりが議論されており、同社も対応を急ぐ考え。